

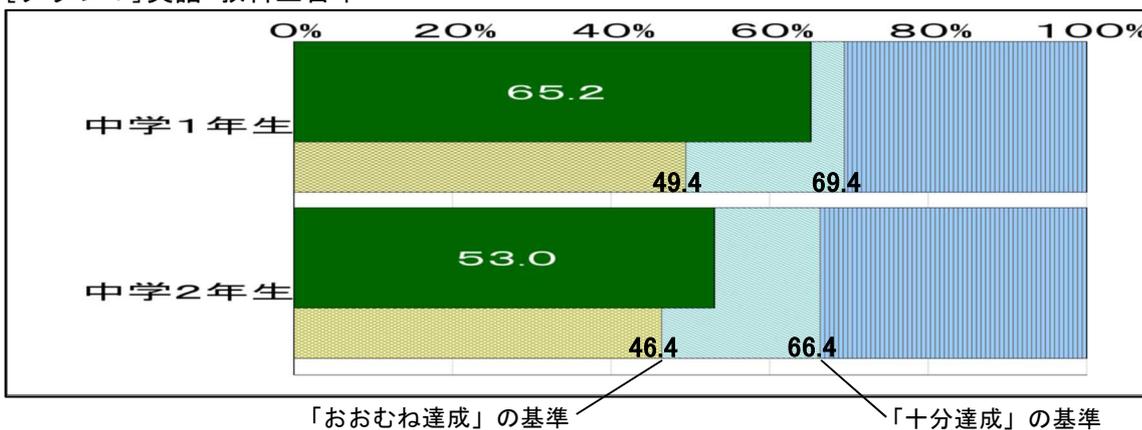
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

英 語

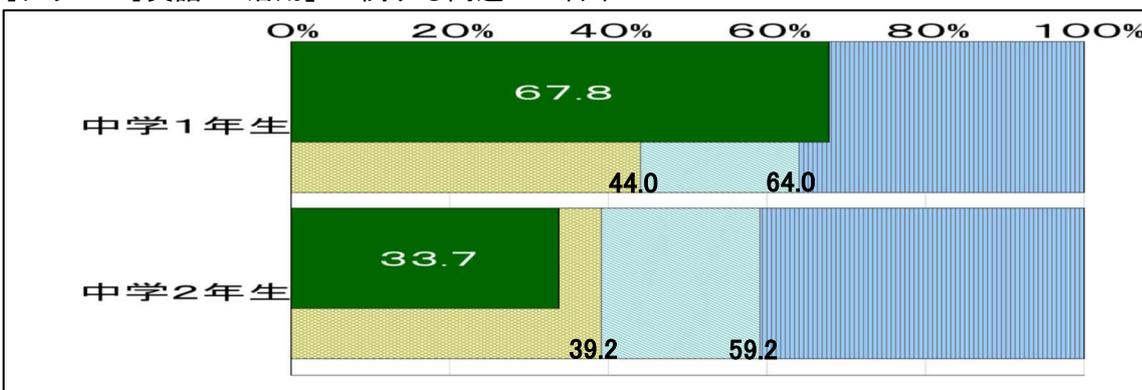
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学1年生で「十分達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、「外国語表現の能力」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「外国語理解の能力」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、「聞くこと」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に中学1年生で「十分達成」の基準を上回っている。「読むこと」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「書くこと」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6、7]

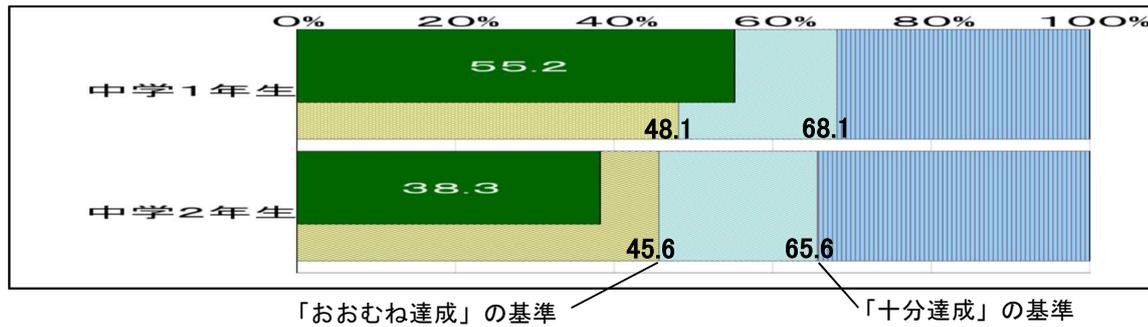
[グラフ1] 英語 教科正答率



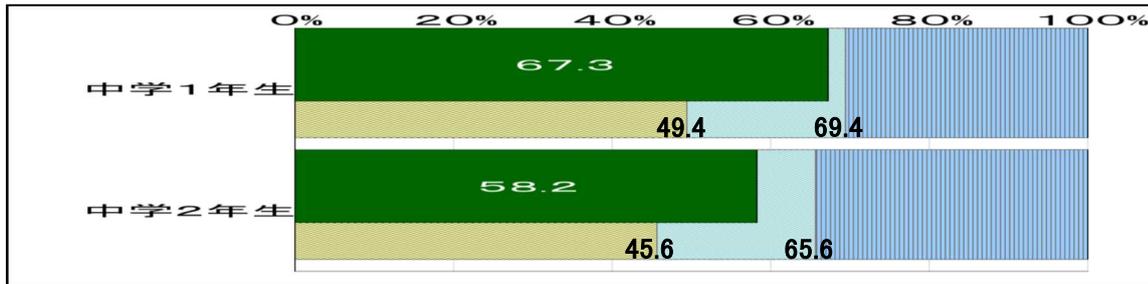
[グラフ2] 英語 「活用」に関する問題の正答率



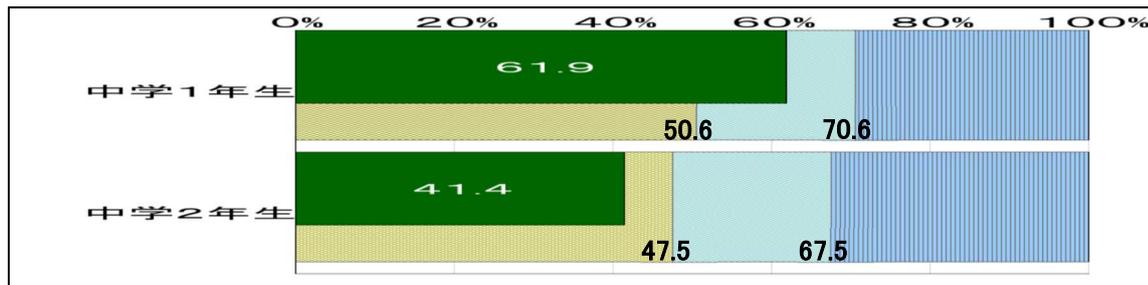
[グラフ3] 英語 「外国語表現の能力」 観点の正答率



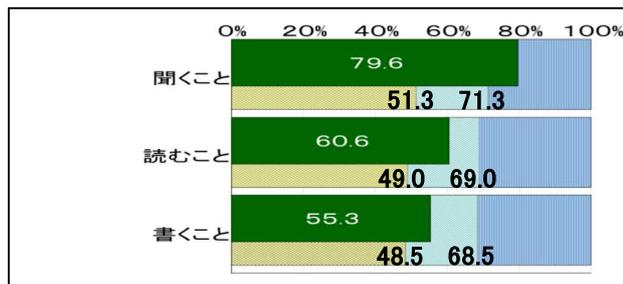
[グラフ4] 英語 「外国語理解の能力」 観点の正答率



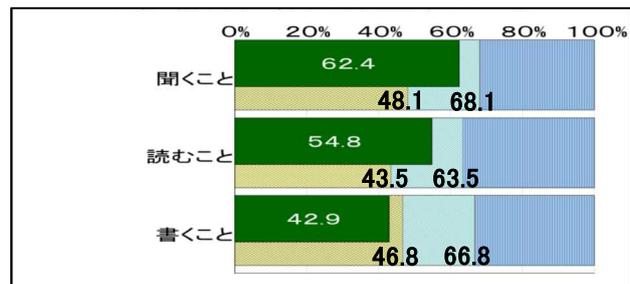
[グラフ5] 英語 「言語や文化についての知識・理解」 観点の正答率



[グラフ6] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ7] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校英語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 対話を聞いて、適切に応じる力が、身に付いている。
(中学1年生²(1)(2)、中学2年生²(1)(2))
- ◇ 説明文を読んで、中心的な内容を理解したり、対話文を読んで話し手の伝えようとしていることを正確に理解したりすることができている。
(中学1年生⁷(2)、中学2年生⁶(1))
- ◆1 まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解することに課題が見られる。
(中学2年生³(1))
- ◆2 疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書いたり、語と語のつながりに注意して正しく書いたりすることに課題が見られる。
(中学1年生¹⁰(2)、中学2年生⁸(1)(2))
- ◆3 メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書くことに一部課題が見られる。
(中学2年生¹²(2))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 内容的にまとまりのある複数の英文を聞かせる際に、聞く必然性をもたせるために、全体の概要や内容の要点など、聞き取るポイントとして何を捉えるかを具体的に発問した上で、必要な情報を理解できるようにしていますか。
 - 聞いて得た情報を整理して、人に伝えてやり取りしたり、書いてまとめたりして、内容をどれくらい理解したかを、生徒自身が確認できるような振り返りの活動を設定していますか。
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 授業や活動の導入での **Teacher talk** を用いて、生徒が疑問文の意味や使用場面について考えることができるようにしていますか。
 - 教科書の基本文や本文にある疑問文を学習するときに、実際のコミュニケーション場面を想定した **Q & A making and Solving** などを設定し、生徒が試行錯誤しながら発話を考えることで **Intake** できる活動を設けていますか。
 - クイズショーやインタビューなどの場面を設定し、予め質問と応答を原稿に書かせたり、即興で質問と応答をさせたことを書かせたりして、**Speaking** と **Writing** を関連付けさせるような **Output** 活動を行っていますか。
 - 言語活動を行う際に、生徒の発話を録画して視聴させたり、発話したことを書かせたりすることで、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文になっているか見直せるような工夫を行っていますか。
 - 生徒が書いた英文を、疑問文の構造を理解し、正しい語順や語法で文を書いているか、教師が適時チェックし **Feedback** していますか。
- ◆3 メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 英文を読ませる際に、人物の心情や場面の状況について、教師が、事実発問、推論発問、評価発問の構成に沿って発問し、生徒の内容理解が深まるような活動を取り入れていますか。
 - 英文を読ませる際に、自分なりの感想を述べ、その理由を添えさせることで、読んだことを基に「やり取り」ができるような活動を取り入れていますか。
 - 英文を書かせる際に、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように、文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書かせるようにしていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校英語科）

- ◆ 2 疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書いたり、語と語のつながりに注意して正しく書いたりすることに課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 10 (2)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く。 (記述式)	絵に描かれている場面で、対話が成り立つように、吹き出しの空欄部に2語以上の英文を書く。	42.9	17.4	65.0	45.0

【正答の条件】

対話が成り立つ文について、2語以上で、語順、文頭の大文字、綴りの全てが正しく書かれているもの。

(準正答 対話が成り立つ文について、2語以上で、語順が正しく書かれているが、次の条件(綴りの誤り(複数あっても構わない)がある、大文字・小文字の誤り(複数あっても構わない)がある、文末にクエスチョンマークを書いている)のうち、1つ以上当てはまるもの。)

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・ 単語を書くこと自体はできているが、“He is likes music”のように語順や動詞に誤りがあり、正しい英文を書くことができていない。
- ・ 描かれている場面の理解は一部できているが、“Who are you”のように対話が成り立つ文を書くことができていない。
- ・ 描かれている場面の理解はできているが、“Who is boy”のように形容詞の that が脱落しており、正しい英文を書くことができていない。

■ 改善・充実に向けて

描かれている場面の理解はできていますが、疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書くことに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・ 授業や活動の導入での **Teacher talk** を用いて疑問文の使用場面を示すことで、生徒が疑問文の意味や使用場面について考えることができるようにする。
- ・ 教科書の基本文や本文にある疑問文を学習するときに、生徒が試行錯誤しながら発話を考えることで、疑問文の構造を理解し、正しい表現を **Intake** できる活動を授業に位置付ける。**Q & A making and Solving** などのコミュニケーション活動を設定することで、対話が成立するためには、正しい表現が必要になることに気付くことができるようにする。
- ・ クイズショーやインタビューなどの場面を設定し、**Speaking** と **Writing** を関連付けさせるような **Output** 活動を授業に位置付ける。その際、正しい表現での質問と応答をあらかじめ原稿に書いて話したり、即興で質問したり応答したりしたことを書かせたりすることで、状況にあった表現に気を付けながら話したり書いたりすることができるようにする。
- ・ 言語活動を行う際に、生徒の発話を録画して視聴させたり、発話したことを書かせたりすることで、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文になっているか見直す活動を授業に位置付ける。
- ・ 生徒が話す表現や、生徒が書いた英文を、教師が適時チェックし **Feedback** するようにする。

◆ 3 メールを書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書くことに一部課題が見られる。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問12 (2)	メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書く。 (記述式)	外国の中学生からのメールを読み、その返信として、自分の意見や感想を1文と、自分の考えを3文で書く。	36.5	25.7	55.0	35.0
<p>【正答の条件】 意見や感想1文が、メールの内容に関連しており、返信としてふさわしく、つながりがよいあなたの考えが3文ある。 (準正答 意見や感想1文が、メールの内容に関連しており、返信としてふさわしく、つながりがよいあなたの考えが2文ある。)</p>						

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・メールの内容を理解することはできているが、“Nice e-mail.”のように、3語以上の一文で意見や感想を書くことができていない。
- ・メールの内容の理解はできており、“I want to be a cook in the future, too. But I have to study.”のようにメールの内容に関連しているものの、話題に一貫性のあるつながりがよい英文を書くことができていない。
- ・メールの内容の一部は理解できているが、“I’m go to work experience too.”のように、文構造や動詞の時制に誤りがあり、意味が理解できる英文を書くことができていない。

■ 改善・充実に向けて

メールの内容は理解できていますが、読んだ内容に対して自分の意見や感想とその理由としての自分の考えを、つながりのよい英文で書くことに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・英文を読ませる際に、人物の心情や場面の状況について、教師が、事実発問、推論発問、評価発問の構成に沿って発問し、生徒の内容理解が深まるような活動を授業に位置付ける。例えば、「誰からのメールですか。」「どんな内容でしたか。」「職場体験での感想を教えてください。」などの発問をすることで、生徒がメールの内容を理解し、返事について考えることができるようにする。
- ・英文を読ませる際に、自分なりの感想を述べ、その理由を添えさせることで、読んだことを基に「やり取り」ができるような活動を授業に位置付ける。必要に応じて、①I like tennis very much. (思っていること) ②I want to be a tennis player. (将来について) ③I practice it hard every day. (現在のこと) のように例を示し、自分の考えを3文以上で伝えさせるようにする。活動を通して、話す内容にまとまりがあると、聞き手に対して分かりやすくなることに気付くことができるようにする。
- ・英文を書かせる際に、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように、文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書かせるような活動を授業に位置付ける。「やり取り」の内容を、必要に応じて、教科書やワークシートを参考にしながら、正しい英文で書かせるようにする。その英文を、教師が適時チェックし Feedback するようにする。この一連の流れから、生徒が相手意識をもち、適切な表現に気を付けて、話したり書いたりすることができるようにする。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 中学1年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,806	65.2	5.9	69.4	49.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	79.6	0.5	71.3	51.3	◎
	読むこと	10	60.6	6.1	69.0	49.0	
	書くこと	10	55.3	11.7	68.5	48.5	
評価の観点	①表現	8	55.2	13.3	68.1	48.1	
	②理解	16	67.3	4.0	69.4	49.4	
	③言語・文化	9	61.9	9.3	70.6	50.6	
問題形式	選択式	13	75.5	0.7	69.6	49.6	◎
	短答式	5	52.1	11.2	71.0	51.0	
	記述式	8	56.5	11.1	68.1	48.1	
活用	「活用」に関する問題	5	67.8	5.0	64.0	44.0	◎

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 表から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			74.7	0.5	75	55	
1	(2) 表から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			91.1	0.4	75	55	◎
1	(3) 対話を聞いて、必要な情報を理解する	○				○		○			93.9	1.6	75	55	◎
2	(1) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			78.8	0.4	70	50	◎
2	(2) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			85.2	0.3	70	50	◎
3	(1) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			87.3	0.3	70	50	◎
3	(2) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			61.4	0.4	70	50	
4	聞いて得た複数の情報を関連付けながら理解する	○				○		○	○		64.5	0.3	65	45	
5	(1) 対話文を読んで、対話の流れに合った発言の内容を捉える	○				○		○			70.8	1.0	70	50	◎
5	(2) 対話文を読んで、相手の発言に応じた発言の内容を捉える	○				○		○			74.2	0.9	70	50	◎
6	説明文を読んで得た複数の情報と絵から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○			76.6	0.7	70	50	◎
7	(1) 説明文を読んで、話の展開に応じた語を捉える	○				○		○			18.6	13.3	70	50	▼
7	(2) 説明文を読んで、中心的な内容を捉える	○				○		○	○		76.0	1.1	65	45	◎
8	(1) 対話文を読んで、大切な部分を理解する	○				○		○			46.9	13.0	70	50	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	話すこと	表現	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				記述式	十分達成	
8	(2)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○							○			59.2	1.5	70	50	
8	(3)	対話文を読んで、発言の意図をつかむ	○							○		○	82.4	1.2	65	45	◎
9	(1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○							○		66.6	11.0	70	50	
9	(2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○							○		34.4	17.0	70	50	▼
10	(1)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○						○			56.8	12.1	65	45	
10	(2)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○							○		42.9	17.4	65	45	▼
11	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○							○		52.4	5.6	70	50	
11	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○							○		59.4	5.3	70	50	
12	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○							○		74.6	9.3	75	55	
12	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○							○		49.6	17.0	75	55	▼
12	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○							○	○	56.1	15.7	65	45	
13		自己紹介の文に、相手に対する質問を加えた、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く		○							○	○	60.3	6.7	60	40	◎

[表2] 中学2年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,922	53.0	9.1	66.4	46.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	62.4	2.8	68.1	48.1	
	読むこと	10	54.8	11.3	63.5	43.5	
	書くこと	11	42.9	13.1	66.8	46.8	▼
評価の観点	①表現	8	38.3	16.6	65.6	45.6	▼
	②理解	18	58.2	7.5	65.6	45.6	
	③言語・文化	8	41.4	14.4	67.5	47.5	▼
問題形式	選択式	15	63.8	1.3	67.7	47.7	
	短答式	2	54.1	14.0	67.5	47.5	
	記述式	11	38.0	18.8	64.5	44.5	▼
活用	「活用」に関する問題	6	33.7	23.3	59.2	39.2	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)① 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			83.6	0.3	75	55	◎
1	(1)② 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			96.9	0.3	75	55	◎
1	(2) 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			48.5	18.5	70	50	▼
2	(1) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			90.4	0.4	70	50	◎
2	(2) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			67.3	0.4	65	45	◎
3	(1) まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○			17.5	0.7	65	45	▼
3	(2) まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○			50.7	1.2	65	45	
4	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する	○			○			○	○		44.7	0.8	60	40	
5	(1) 表から読み取った情報と対話の展開を関連付けて、対話の内容を理解する	○			○			○			65.5	1.0	70	50	
5	(2) 対話文を読んで、その後の展開を考える	○			○			○			62.6	1.4	65	45	
6	(1) 対話文を読んで、話し手の伝えようとしていることを正確に理解する	○			○			○			77.3	1.2	65	45	◎
6	(2) 対話文を読んで、人称代名詞が指す人物を理解する	○			○			○			59.7	9.5	65	45	
6	(3) 前後の対話の流れに基づいて、人物の発言を考える	○			○			○	○		41.0	27.7	60	40	
7	(1) 説明文を読んで、要点を正確に理解する	○			○			○			64.8	1.7	70	50	

設問別集計結果

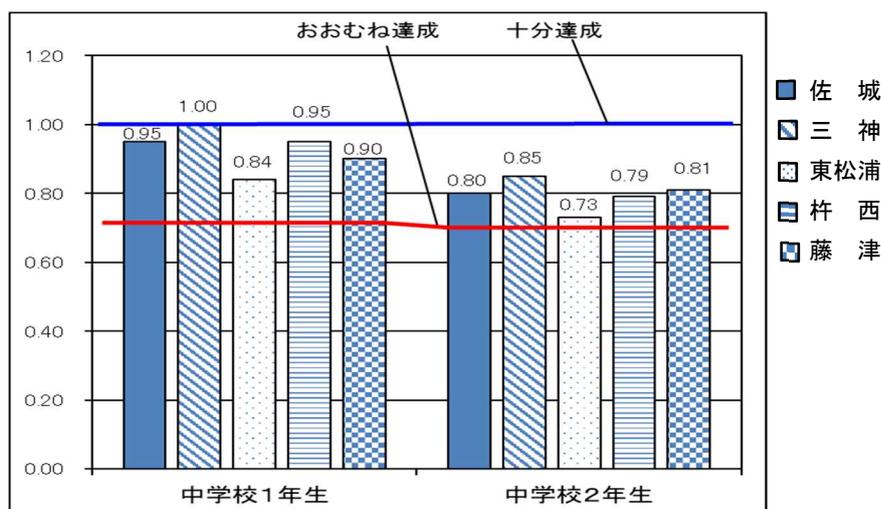
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
7	(2) 説明文に書かれている意見に対する賛否を、その理由から判断する	○				○			○			49.5	2.3	60	40	
7	(3) A L T の話を受けた感想の要点を考える	○				○				○	○	9.9	38.0	55	35	▼
8	(1) 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○			○	○			○		26.6	16.8	65	45	▼
8	(2) 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○			○	○			○		19.8	26.8	65	45	▼
9	(1) 対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		66.3	3.6	70	50	
9	(2) 対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		79.2	3.7	70	50	◎
9	(3) 対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		20.5	4.2	70	50	▼
10	(1) 一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る		○			○			○			49.3	1.7	70	50	▼
10	(2) 一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る		○			○			○			55.1	1.6	70	50	
11	(1) 質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○		48.6	13.1	75	55	▼
11	(2) 質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○	○	36.3	19.7	65	45	▼
11	(3) 質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○	○	33.7	27.6	60	40	▼
12	(1) メール本文の内容を正しく理解する		○				○		○			81.2	4.0	70	50	◎
12	(2) メール書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書く	○	○			○	○			○	○	36.5	25.7	55	35	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、中学校1年生、中学校2年生ともに5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ8]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表3]のとおりで、中学校1年生、中学校2年生ともに地域差が大きい。また、平成29年度12月調査と比べて中学校2年生で地域差が縮小し、中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ8] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表3] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
中学校1年生	英語	H30[12月]	1.01	1.07	0.89	1.01	0.96	▲ 拡 0.18
		H29[12月]	1.00	1.05	0.90	1.03	1.01	▲ 0.15
中学校2年生	英語	H30[12月]	1.00	1.07	0.92	0.99	1.01	▲ 縮 0.15
		H29[12月]	1.02	1.08	0.89	0.99	0.98	▲ 0.19

- ※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出
- ※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す
- ※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す
- ※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町